

鹿児島市及び連携中枢都市圏3市の市民活動団体のご紹介



人口減少や少子高齢化の影響で、独居高齢者が増え、孤独死してしまう方や周りの人と十分にコミュニケーションを取ることができずに認知症になる方が増えている。そのような現状に対し、今、「予防」という切り口が注目されている。そして、それを薬局でコミュニティカフェを開くという形で取り組んでいるかごしま地域健康支援工房の高野猛（たかの・たけし）さんに話を聞いた。

介護と予防を地域づくりと掛け合わせる

元々は母体の社会福祉法人で高齢者介護事業をしていたのですが、介護予防の事業を確立させるためにNPOを立ち上げました。主に総合事業をしています。例えば、鹿児島市では吉田地域で運動型デイを、真砂本町ではミニデイと自費参加の健康教室を実施しています。また、始良市では主に3ヶ月間の短期集中型で機能低下改善に取り組むプログラムを提供しています。その他に認知症予防事業としてiPadを使用したコミュニケーション型認知症予防講座を日置市と南九州市の委託を受けて実施しています。

このような活動を続ける中で、新たな課題認識を持つようになりました。地域福祉包括センターへ相談しに来た段階で介護申請という方が圧倒的に多いことです。それを手前で食い止めるために、人が集まる場所での生涯現役カフェを始めました。カフェでは、体力測定や認知機能測定、日常生活の相談などを実施しています。

人が元気じゃないと、地域も元気じゃない

今、生涯現役カフェに来ているのは、ほとんどが薬局にお薬をもらいに来る人です。薬局の来客数に左右されているので、この生涯現役カフェを目指してきてもらえたらうれしいですね。認知度を上げることが課題です。

また、ご利用いただいている人は地域に住んでいるので、地域づくり活動にも取り組んでいます。拠点のある真砂本町では、「カモシン」という鴨池商店街振興会の活動に関わっています。

十人十色という言葉の通り、地域も10あればそれぞれの形がある。それぞれに合ったように、そこに暮らす人が生きるために、その地域が活きるために私たちは支援させてもらっているという思いで活動しています。人が元気じゃないと、地域も元気じゃないと思っているので。

介護になる前に、自分たちでできることをできるように

「予防」という切り口は、実は、鹿児島ではまだ盛んではありません。少しでも早く鹿児島にも予防事業を拡げていきたいと思っています。介護予防の分野は、制度上、報酬が少ないという現状もあります。地域に必要な存在として、介護予防の事業化を今は模索している途中です。

また、地域住民の「予防」への意識を高めていきたいと思っています。介護が必要になったら、行政の助けを受ければいって人が多いんです。そうではなく、要介護にならないために自分たちに何ができるか、予防の意識が日常的にある状態をつくりたいと思っています。

(活動風景)



かごしま地域健康支援工房 団体概要

<活動内容>

- ①介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）
- ②認知症予防事業
- ③自費参加型健康づくり事業
- ④生涯現役カフェ（MCI（軽度認知障害）など困りごとを解決するための相談場所）

<課題への取り組みと今後の展望>

MCI高齢者やフレイル（*）高齢者の早期発見・介入が可能になるように、生涯現役カフェの周知を図る。

介入の際は、長寿あんしん相談センターなど地域資源や行政機関などと連携・協力しながら、総合事業や自費サービスへの参加を促し、介護予防を活発に行っていく。

さらには、同年代の方々が集うことによる参加しやすい環境づくりや生きがい就労ができる場所の創出を目指している。

*年齢を重ねることで生じる衰え全般

- ▷名称：特定非営利活動法人 かごしま地域健康支援工房
（愛称：かごちけ）
- ▷代表者名：理事長 高野 猛
- ▷会員数：10人
- ▷主な事業：介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）
認知症・介護予防委託事業
介護予防自費サービス事業
- ▷連絡先：（TEL）099-230-7974
（MAIL）krwss@kagoticke.com

